

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4070701331
法人名	医療法人香林会
事業所名	グループホーム 螢の郷
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区香月西3丁目10-17 (電話) 093-618-8893
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年6月9日

【情報提供票より】(平成21年5月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	23 人 常勤 14人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.6人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(456,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成21年5月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.4 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院、八幡厚生病院、うへの歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には川が流れ、その向こう側には香月中央公園があり釣り糸を垂れる人の姿や公園で遊ぶ子供の姿を眺める事ができる。ホームの周りには緑も多く小鳥のさえずりが聞こえ心が和む。それぞれの居室には出窓があり思いおもいに鉢植えや、写真等が飾られ中には出窓を上手く利用し喫茶コーナーにされている利用者もいた。開設以来7年の年月がたち、入居者も高齢化し入居時は自立できていた利用者も介護の手が多くいるようになってきたが、その中で管理者を中心に利用者の尊厳を常に考えケアに当たっている。全職員が経験や勤務時間を考慮しながら外部研修を勤務として受けられるよう研修体制が取られている。職員の休みもほぼ希望どおり取れるようにし、気持ちよく介護に当たられるよう管理者は気配りをしている。今後も心を大切にしたいケアが行われるホームであることが感じられる。大いに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は外部評価を行なう目的を理解し、前回の改善課題であった「地域とのつきあい」「同業者との交流を通じた向上」について職員全員で改善に向けて話し合い改善された。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員・管理者は評価の意義を理解しており、自己評価は全職員で取り組み、管理者は職員各自の自己評価をまとめ作成した。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表、家族代表、地域の代表、包括支援センターの職員、ホームの職員が参加して2ヶ月に1度開催され運営報告、事故報告、外出、行事、研修報告等を行なっている。出席者の質問や意見に対しては管理者・職員で検討しサービスの向上に生かしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 個々の状態については面会時に伝えている。体調の変化などはその都度電話で連絡をしている。運営推進会議の報告書を毎回家族に送付しているので、職員の異動があるときはその時に一緒に行なっている。螢の郷だよりを毎月出して近況を知らせている。金銭納帳は毎月初めに報告している。運営推進会議を利用したり家族の面会時に意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。家族から出された意見は連絡ノートに記入し全員で共有し改善に努めている。重要事項説明書にホームの相談窓口、保険者、国保連の窓口が記載されている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校の運動会や公民館の行事に参加している。地域の商店街で買い物をしたり、地域の農家からお米を購入したり、地域的美容室を利用したりして地域との交流を図っている。他にも、ホームの前を歩いている人や遊んでいる子供達、前の川で釣りをしている人たちに声かけをしたりして、グループホームを知っていただけるように心がけている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「地域に密着したグループホームを目指します」に加え21年4月から各ユニットごとに職員全員で理念を出し合い「利用者様の自立支援」「利用者様に気持ちよく安全に過ごして頂く様に」「地域とのネットワークを作っていきます」等、独自の理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の書かれた紙を職員全員に配布し、食堂に理念の掲示を行って理念の共有を図っている。また、理念に添っていないと気づいた時は、ミーティングや勉強会等で振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や公民館の行事に参加している。地域の商店街で買い物したり、地域の農家からお米を購入したり、地域的美容室を利用したりして地域との交流を図っている。他にも、ホームの前を歩いている人や遊んでいる子供達、前の川で釣りをしている人たちに声をかけをしたりして、グループホームを知っていただけるように心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、自己評価は全職員で取り組み、管理者は職員各自の自己評価をまとめ作成した。前年度の改善点の「地域とのつきあい」「同業者との交流を通した向上」は職員全員で話し合い改善した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、地域の代表、包括支援センターの職員、ホームの職員が参加して2ヶ月に1度開催され、運営報告、事故報告、外出、行事、研修報告等を行なっている。出席者の質問や意見に対しては管理者・職員で検討しサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと空室状況の情報交換を行いながら、連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1年に1回職員が研修に行き、伝達研修を行なっている。過去に1名の方が成年後見制度を利用されていた。自分のホームの対象ではない方から相談があったときは、相談センターを紹介している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の状態については面会時に伝えている。体調の変化などはその都度電話で連絡をしている。運営推進会議の報告書を毎回家族に送付しているので職員の異動があるときは、その時に一緒に行なっている。螢の郷便りを毎月出して近況を知らせている。金銭出納帳の報告は毎月初めに行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用したり、家族の面会時意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。「なるべく新しい洋服を着せてください」との要望があった際は、連絡ノートに書き全員で共有し改善した。重要事項説明書にホームの苦情相談窓口、保険者、国保連の窓口が記載されている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は同じ法人の老健との間で2年に1度異動を行っていたが現在は行っていない。ユニット間では2年半から3年に1度行なっているが、利用者の状況を見ながらダメージがありそうときは延期をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から外していない。男性職員5名、軽度障がい者2名も働いている。年齢も60歳代の方まで働かれている。有給休暇も重ならない限り、ほぼ希望どおりとれ、社会参加や自己実現の権利が十分与えられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	2ヶ月に1度の勉強会で話題にし意識づけをしている。尊厳をどうするかはよく話題になり、日常の業務の中で取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた研修計画を立て経験年数に応じた研修を受ける機会を与えられている。月2～3人は勤務として研修に行っている。全職員が勤務扱いでの研修を受ける機会を与えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会で他のグループホームの職員と交流を行なっている。また今年度は螢の郷が役員をしており他のグループホームの職員の出入りがあり、交流のネットワークが出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や老健から入居される場合は何度も面会に行き、自宅から入居される場合は最低2回は自宅を訪問し馴染みの関係作りをしている。部屋が空いていれば体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の必要な支援をする一方、人生の先輩として、教わる事も多々ある。職員は「共に生活をする」という気持ちを持ち続け料理の味見をしていただいたり、かぼちゃの煮つけかたを教えて頂いたり、学んだり支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時に家族から生活歴などを詳細に聞き取り、本人と日々の生活を共にする中で意向の把握に努めている。意志疎通困難な場合は、表情や仕草、行動などから思いを汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーの他に職員が利用者1～2名を担当して本人の思いや意向の把握に努めている。更に家族や医師の意見を取り入れて毎月開催している職員会議で話し合っって介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりのケアプランサービス実施評価記録を毎日取り、月1回の担当者会議および全体会議で検討している。3か月毎に見直しを行っているが、見直し以前に変化が生じた場合は、本人や家族、関係者の意見を聞いて現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の理美容院への送迎支援や「自宅を見に行きたい」「梅見に行きたい」「饅頭が食べたい」等、一人ひとりのその時々要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、今までのかかりつけ医を受診する方や、母体病院をかかりつけ医として希望する方もいる。一人ひとりの利用者が納得して希望する医療機関で適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に本人、家族と「螢の郷における看取りに関する指針」に基づき話し合っている。重度化した場合は終末期の看取りまでは行っていないが、協力病院や協力施設の看護師の応援を得て家族、職員、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の場面や声かけなどは一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応がされている。しかし、記録等個人情報の保管や記録中の書類がリビングの来訪者の目に触れる場所にあり、漏洩防止や秘密保持の徹底が不十分である。	○	職員はプライバシー保護の徹底や個人情報の漏洩防止が責務となっているため、ミーティングの折などに全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図ってほしい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床時間の決まりはなく、夕食後リビングで遅くまで過ごす方や早く部屋に戻る方、早朝に起床する方、遅く起きる方など一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食材の下準備など利用者のできる部分は職員と一緒にしている。職員が利用者と同じ物を同じテーブルを囲んで、見守りや食事介助、および声かけをおこなっており、楽しく一人ひとりのペースに合わせた支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一日おきの9時30分～15時、13時30分～17時と各ユニットごとにおおよその時間帯は決めているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者は無理強いせず声かけや、タイミングを見計らった支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの花の水やりを毎日する方や、自分の部屋の掃除をする方もいる。また、自室の窓際にポットやコーヒーセットなどを準備して毎日食後のひと時を外の風景を眺めながら過ごす方など一人ひとりの役割や気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム近くの川岸を数人の利用者が職員と一緒に散歩したり食材買い物と一緒に出かけている。毎月1～2回は4～5人で外出しており、藤やチューリップの花見、皿倉山等の近辺へのドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤帯(21時～6時30分)以外は玄関の施錠はしていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関にはチャイムが設置されている。玄関の花を眺めに外に出る方などは、そのつど見守って鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年6月と11月の2回夜間想定と夕食時食堂からの出火を想定した訓練を実施している。今月消防署と地域消防団の参加で訓練実施予定になっており、職員も一時避難場所、避難方法を身につけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限やミキサー食などの必要に応じて、系列施設の管理栄養士のアドバイスを受けている。摂取記録を取り、水分は食事、午前、午後のおやつ時間、入浴後、就寝前に水分補給を行っている。自室に持ち込んで自由に飲む利用者もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(居間兼食堂)は広くゆったりくつろげるソファが設置されており、畳の部屋もある。不快な音もなく、坪庭の木々や花ばなからは季節感が感じられて、居心地よく過ごせるように工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族写真や冷蔵庫、お仏壇のある部屋、ポットやコーヒーセットを置いている部屋、鉢花を置いている部屋など、一人ひとりの好みを活かして居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>		